第61回 日本PTA全国研究大会みえ大会

みえに集えばきっと見える …三重からの「わ」

～はじまりの地で 語り育もう 子どもたちの未来～

第61回日本PTA全国研究大会は8月23日（金）24日（土）三重県で開催され、本県から19名が参加した。第1日目は県内11会場で分科会が開かれ、特別第2分科会では東日本大震災で被災した山田町立山田南小前PTA会長（現山田中PTA会長）の佐藤吉孝氏と大槌町で学習支援活動しているNPO法人カタリバの菅野祐太氏がパネリストを務めた。2日目は伊勢市で全体会が開かれ、開会式に続き、ヴァイオリニストの川井郁子氏が「子どもたちの未来へ」と題し、記念講演した。なお26年度全国研究大会は長崎県で開催される。

みえ大会レポート

第1分科会「活発な組織作りに取り組もう」

矢巾町立煙山小学校
PTA会長
石舘　勝好

本年度からPTA会長に就き、少しでも組織の活性化を図りたいと考え、「活発な組織作りに取り組もう」をテーマとした第1分科会「組織運営」に参加しました。

基調講演「小惑星探査機『はやぶさ』～未踏課題への挑戦と教訓～」の講師は、このプロジェクトを支えたNECのエンジニア・荻野慎二氏（地元津市の出身）です。

ご存知のとおり、小惑星「イトカワ」から微粒子を持ち帰った「はやぶさ」の偉業の陰には数多くの失敗・トラブルがありました。荻野氏は、これらの失敗を「望外の教訓・経験を得た」として肯定的に振り返っています。成功だけでは何が良かったか分からないが、失敗があれば原因と対策が分かり、必ず次に生かせるということです。

また、荻野氏は、プロジェクトの主体であるJAXA（宇宙航空研究開発機構）には、高い目標を掲げ失敗を恐れない組織文化があると分析しています。印象深いのは、宇宙開発の現状の常識に基づく100点満点に対し、500点で評価しようとする革新的なプロジェクトだったということ。誰もやったことのない事業は減点方式で評価してはいけない、失敗を数えない加点方式で評価するという発想は、荻野氏の「失敗」に対する考え方と併せて、失敗を恐れない組織文化の醸成に必要なのだと思いました。これは子どもの教育にも生かせそうで、荻野氏も家庭で実践しておられるようです。

PTAの実践発表は、急速に進む過疎化・少子化のために段階的に12校が1校に統合されてしまった津市立美杉小学校の事例です。親自身、卒業した学校が地域から無くなる寂しさを知っており、子ども達に同じ思いをさせたくない。それでも、子ども達が学ぶ環境の充実を考え、保護者間で徹底的に話し合い、何とか統合について合意したという内容でした。

徹底的な議論、統合前の各校PTAや地域活動の良いとこ取りも出来て、今の同校のPTA活動は大変活発なようです。他の会員への遠慮が伴う場面も多いPTA活動ですが、子ども達のことを第一に考え、議論を大事にする姿勢はPTA組織に欠いてはいけないことだと気づかされました。

パネルディスカッションでは、様々な地域・PTAの取り組みが紹介されました。名案と思ったのが、北九州市P協議会前会長が提案する「PTAの日」。各校PTA総会の実施日を統一し、企業にも働きかけて、保護者（従業員）がPTA活動に参加することを奨励してもらおうという取り組みです。

実は、PTA役員をやっていることが、再就職の面接で否定的に捉えられるという話を幾つか聞かされたことがあります。「PTAの日」の取り組みを聴き、県P連という組織が企業向けキャンペーンを張るなどして会員がPTA活動に参加しやすくなるよう働きかけ、各単位PTAを支援頂けないものだろうかと考えているところです。

終わりに、ご縁があって、全国研究大会参加の機会を頂いたことにつきまして、関係者の皆様に御礼申し上げます。この大会で得た知見を、会長職としての残り任期、そして小・中学校PTA会員として残りの5年間に生かしたいと思います。